様式第5号(第9条関係)

論 文 内 容 の 要 旨

報告番号		氏　名	切畑屋　友希
Impact of pretreatment asymptomatic renal dysfunction on clinical course after esophagectomy (和訳) 食道切除後の臨床経過に対する無症候性腎機能障害の影響			

論文内容の要旨

【目的】食道癌の手術はほかの胃腸手術よりも高い死亡率を示している．また，これまでの報告では術前の合併症は食道癌術後の合併症との関連について報告されているが，無症候性腎機能障害が食道切除後の術後経過に影響を及ぼすかどうかは依然として不明のままである．今回，無症候性腎機能障害が食道切除後の術後経過の影響について検討した．

【方法】対象は2009年5月から2018年12月までに食道切除術を受けた合計177人の患者．腎機能は，術前の推定糸球体濾過率（eGFR）によって評価を行った．eGFR 55 ml/min/1.73m^{2}をカットオフ値にとして低eGFR群と正常群での2つのグループに分けて検討を行った．

【結果】正常群：低eGFR群は160人：17人であり，平均年齢はそれぞれ65±7.0歳，73±7.5歳で低eGFR群では高齢の傾向があった．そのほか，術前合併症，検査値（ヘモグロビン，クレアチニン，アルブミン），占拠部位，壁深達度，リンパ節転移，進行度，リンパ郭清の程度，術前化学療法の有無では2群間に差はみられなかった．また，手術因子として，手術時間，出血量，術後合併症，で検討を行ったが，2群間に差はみられなかった．低eGFR群ではClavien-Dindo分類Ⅲb以上の重篤な合併症は，正常群よりも有意に多くみられた（p=0.04）．年齢，性別，術前合併症，占拠部位，腫瘍径，壁深達度，リンパ節転移，リンパ郭清の程度，術前化学療法の有無，血液検査値（ヘモグロビン，クレアチニン，アルブミン）でも検討を行ったが，低eGFRのみが重篤な合併症リスクであった．また，低eGFR群と正常eGFR群の間で生存率に有意な差は認めなかった．

【結論】今回の検討で，術前の無症候性腎機能障害が食道切除後の重篤な合併症の危険因子である可能性があることを示した．